

絆きずな

【kizuna】

ぐんま人権情報誌【秋冬号】

VOL.13

2013

特集

家庭や地域、職場の元気と
女性の人権



「食」は生命の源「食」を支える国府野菜本舗
女性スタッフのみなさん

目次

巻頭言

自分らしく輝ける社会に!!

群馬県女性団体連絡協議会会長
群馬弁護士会人権擁護委員会委員

弁護士 野上 佳世子 2・3

行政の取り組み

「ぐーちよきパスポート」について

群馬県少子化対策・青少年課

「ジョブカフェ・マザーズ」について

群馬県労働政策課

4

企業訪問インタビュー

我ら 企業市民!!

～家庭や地域、職場・地域での人と人とのかかわり～

東和銀行執行役員 人事部部長

伏嶋 登志子 5

随想

時代の推移の中で学童を見守り続け30年

あすなる学園学童クラブ 園長 小見 勝栄 6

地域の活動

新しい働き方、交流の拠点、村の未来

道の駅 あぐりーむ 昭和の取り組み

駅長 倉澤 新平 7

インフォメーション

- ・人権相談 「DV相談」の窓口をご存知ですか
- ・子育て支援の輪を広げていきませんか

あとがき

8

巻頭言



野上弁護士は、生涯続けられる職業として司法の道を選び、現在、夫・子とともに前橋市内にて法律事務所を開業されておられます。
スモン訴訟薬害弁護団、群馬トンネルじん肺訴訟弁護団事務局長、ココ山岡訴訟群馬弁護団長など、消費者の目線にたち支援活動を行うなど数々の人権・消費者問題等の解決に尽力されておられます。

自分らしく輝ける社会に!!

群馬県女性団体連絡協議会会長
群馬弁護士会人権擁護委員会委員
弁護士 野上 佳世子

【私がいろいろ気づくまで】

おぎゃーと生まれた私は女の子だった。大きくなるにつれて、元気印だった私は周りの人から「この子が男の子だったら・・・」などと言われたりしていた。

学校では入学式も卒業式も含めすべて男子が先ということにも何も感じてこなかった。そして当たり前のように女子校に進学した。その後大学でクラス80人の中に女子は3人、男子と普通に話せるようになるまでリハビリを必要としたのだった。

家では母(嫁)の生きにくさに気づくようになった。大家族の中で自分の思いは言えないし、家にお金はあっても表向き母が自由にできるお金はなかった。このような母を見て私は自分の口は自分で糊をしようと思ひ、一生の仕事として司法の道を選んだ。そんな私に叔父は、「女が教育をつけすぎると嫁のもらい手がなくなる。お前のような者が家に残ると兄の嫁が来なくなる。」と受験を止めるよう言われたが、従うことはしなかった。受験の仲間から、試験で苦勞するより合格した人と結婚した方がなどと迷惑なお世話もあった。そして合格した後の研修所では、所長から裁判所は女性を採りたがらない旨の発言もあって、裁判所はそういう所かと驚かされ

もした。卒業後法律事務所は、「男性はうちの事務所に」と誘われても、女性の就職口はとても厳しいものだった。

これらのことを経て、私は「女性も自分らしく輝いて生きられる社会」をめざすことが目標となった。

【群馬県女性団体連絡協議会】

1995年私は北京の世界女性会議に弁護士として参加した。世界中の女性のパワーに圧倒されて帰った。そして群馬県の代表としてこの会議に参加した高崎商科大学の山崎紫生先生に誘われ、ぐんま女性会議のメンバーになった。そして地域で「女だから・男だから」とされる役割分担を変更し、女も男も仕事も家庭も大切にしようとの活動をするようになった。そしてこの目標を達成するためには他団体との連携は欠かせないと群馬県女性団体連絡協議会(県女性連協)に加盟し活動が続いている。

県女性連協は現在25団体、男女共同参画社会(誰もが性別にかかわらず個性と能力を発揮する機会が確保される社会)をめざして、群馬県や群馬県人権啓発ネットワーク協議会などと共催して「男女共同参画フェスティバル」をぐんま男女共同参画

センターで開催したり、群馬県で私達が暮らしやすくなるようにと意見をまとめ知事宛に県行政への要望として提出している。



男女共同参画フェスティバル(平成25年度)



ぐんま男女共同参画センター運営会議

【安倍首相の女性政策】

首相は「日本の再生～女性が輝く社会の実現」女性の積極登用が経済成長の鍵を握ると言う。女性の積極登用を具体的にどのように実行していくのか、期待はずれにならないようしっかり見守って行きたいと考えている。まず国、そして地方自治体において女性の積極登用のお手本を見せてもらいたい。

【みんなちがって みんないい】

私は仕事を通して、ずっと女性に足りないもの「経済的自立」、男性に足りないもの「生活の自立」と考えてきたが、これはこれまでの社会で求められてきたことの結果であるといえよう。

本来社会のいろいろな場面で求められる能力は夫々違っているはずで、その場面・場面で求められる能力を有する人に「男女を問わず」機会が与えられることが大切と考える

これまで埋もれていた女性のチャレンジが社会を元気にするだろうし、ワークライフバランスを進めていくことで、男性も家事・育児の中にも楽しみや新しい発見をして元気が生まれてくると思う。

自分らしく輝いて生きるには、

誰もが ~みんな違って みんないい~ と認めあえる社会を作っていくことではないだろうか。

表紙について

国府の野菜本舗は、農家の主婦が集まり、平成15年より活動を始めました。

知名度を生かした国府野菜の漬物、そして地場の農産物を活用してのお惣菜づくりと主婦の持っている腕と知恵を振り絞って、食育を通して家庭や地域の「元気」の源になる仕事にやりがいを持って取り組んでいます。4年ほど前から、定年退職した男性を主に、国府野菜・国府人参等の地場産野菜の生産にも力を入れてまいりました。現在の会員は、女性20人、男性13人で、全体の2/3は60歳以上です。

若い人の育成にも配慮し、年金組もやりがい・生きがいを感じながら張り切っています。

新鮮でおいしい野菜、そして添加物や保存料のない身体にやさしい漬物やお惣菜、お弁当、ジュース、ドレッシング等、工夫次第で夢の広がる六次産業に、みんなで頑張っております。



定年退職後の年金組も頑張っています



バスツアー客との収穫体験 にんじんの長さに注目!!

行政の取り組み

子育て家庭の支援や子育てしやすい環境づくりを推進しています。

「ぐーちょきパスポート」について

群馬県少子化対策・青少年課

ぐーちょきパスポートとは、「ぐんまちょい得キッズパスポート」のことで、18歳以下の子どもまたは妊婦さんのいる家庭に交付している「ぐーちょきパスポート」を協賛店舗で提示すると、ちょっとお得な特典を受けることができるものです。

この事業は、市町村の協力のもと県が力を入れている子育て家庭優待事業ですが、企業等にもご協力をいただくことによって、社会全体で子育て家庭を応援する機運づくりを目的としています。

協賛店舗には、主に県内の様々な企業等に登録をいただいております。平成19年に事業を開始し、本年9月末現在で4,840もの店舗が登録されました。なお、協賛店舗での特典は各店舗のご負担でご協力いただいております。

店舗数の増加により協賛店舗もより身近なものとなっております。お住まいの地域でぐーちょきパスポートののぼり旗を見かけている読者の方もかなりいらっしゃるのではないのでしょうか。パスポートをお持ちの子育て中のご家庭には今後もぜひご利用いただきたいと思っております。

地域との繋がりが以前より弱くなってきているといわれている中、企業などからもご理解をいただきながら、これからも「社会全体で子育て家庭を応援する」という機運づくりを、この事業を通して行っていきたいと考えています。



※最新の情報については、ぐーちょきパスポートホームページをご覧ください。また、ぐーちょき協賛店舗各店が導入している、子育て家庭に優しい設備も同ホームページでお調べいただけます。

【URL:<http://kodomo.pref.gunma.jp/gcp>】

右のQRコードからもホームページをご覧ください。



「ジョブカフェ・マザーズ」について

群馬県労働政策課

●ジョブカフェ・マザーズのご案内

ジョブカフェ・マザーズは、子育て中の女性を中心とした方の仕事探しをサポートするため、群馬県若者就職支援センター（ジョブカフェぐんま）高崎センター内に群馬県が開設した就職相談窓口です。

利用にあたっての年齢や性別の制限はなく、子育てしながら働きたい男性も対象です。お気軽にご相談ください。

●ジョブカフェ・マザーズの特徴

求人開拓、職業紹介

子育て中の女性を中心とした相談者のニーズを把握し、ニーズに即した求人開拓、職業紹介を実施します。

カウンセリング、セミナーの実施

きめ細かなカウンセリングや、再就職支援センター等、就職に役立つセミナーを実施します。

※事前の予約が必要です。

保育情報、生活支援情報の提供

市町村や関係機関と連携し、就職の際に必要な保育情報や生活支援情報を提供します。

キッズコーナーの設置

子ども連れでも安心して相談していただくため、ジョブカフェ・マザーズ内にキッズコーナーを設置しています。

●利用状況

平成24年4月23日の開所から平成25年9月末までの利用状況は、来所者延べ932件、カウンセリング実施者延べ1,013件で、このうち就職等決定者は78名（うち2名は進学決定者）となっています。

●利用者の声

○子育てでブランクがあり就職活動が不安でしたが、丁

寧なカウンセリングと履歴書添削のおかげで自信を持って面接に臨めました。（30代女性）

○子どもと一緒に本当は大丈夫かと心配していましたが、キッズコーナーのある専用のブースでじっくりカウンセラーに相談ができ、安心して再就職への一歩を踏み出しました。（20代女性）

●就職決定者の声

○カウンセリングでじっくりと相談ができたことで方向性が定まり、不安も解消され、就職に向けて頑張ろうという気持ちが出てきました。応募書類の添削もしていただき、応募、面接へと進み、採用が決まりました。



●ジョブカフェ・マザーズ

（ジョブカフェぐんま高崎センター内）
場所：高崎市旭町34-5（高崎駅西口旭町ビル3F）
TEL.027-330-4510
FAX.027-330-4521
開館時間：月～土曜日、10:00～19:00
（祝日・年末年始除く）
<http://www.wakamono.jp/mothers/index.php>

企業訪問インタビュー

我ら 企業市民!!

～家庭や地域、職場・地域での人と人とのかかわり～

東和銀行執行役員 人事部部長 伏嶋 登志子さん



群馬県内には、本店設置の銀行2、支店設置の銀行12で計14の銀行が事業を展開しています。この度、県内銀行で初めて女性執行役員になられた伏嶋さんにお話を伺いました。

◆Q 「金融業界を志望した動機」についてお聴かせください。

A 高校では、ソフトボール部に属し、3年秋までインターハイ、国体予選に出場するなど部活に専念していました。卒業後の進路は、農家の長女であり進学は考えていませんでした。就活も、アナウンサーやバスガイドを夢見ていましたが、親を助けたい、兄弟や家計のこと、生涯働き続けられることなど考え、家から通える範囲で臨むことにしました。そんな時、企業説明会で大生相互銀行〔現在の東和銀行〕の担当者（学校の先輩でもある）より「心に残る」説明があり、その後の選考試験の受験→合格→入行へとつながり今日に至っています。

◆Q 今日と比較し当時の社会は性別役割分担意識が強かったと思いますが、いかがでしたか。

A 以前の農家の家庭生活は、女性は食事の世話・育児・洗濯などの家事や農作業、男性は農作業や地域活動への参加などと、男性優位の社会になっており、それが当たり前で、疑問にも思いませんでした。職場では、入行当初は、新入女性行員が先輩行員にお茶を入れていましたが、昭和50年頃からは、お茶入れも、来客の場合を除き、飲みたい人が自分で入れる方向へと変わって行きました。周囲の意識の変化により、与えられる仕事の質・量も増え、より仕事に専念できる環境となりました。



◆Q 執行役員は、「共働き」をされておられますが、家族の協力、役割分担などはどのようにされてこられたのでしょうか。

A 役割分担といった申し合わせはなく、大家族（5世代、8人家族）の家へ嫁ぎ、特に義母には本当に面倒見てもらい、助かりました。

私が20代後半の時に義父が病気で倒れ、職を辞めなければと思ったことがありました。その時、職場の上司が私の「働きたい」という思いを汲んで、自宅まで来て家族の協力を求めてくれました。こうした家族や職場の上司・同僚の支えがあつての今日であり、恩返しをしたいという強い思いを持っています。

◆Q 今回の特集テーマでもある「元気」づくりのために、企業として消費者や顧客のニーズ把握、その対応

が大切だと思います。御社が地域社会の構成員として取り組んでいることをお聴かせください。

A 文化活動や環境美化活動、地域とのふれあい活動を展開しています。

一例として、「東和よい子劇場」の開催がありますが、これは歌を歌ったり、影絵劇（日本の昔話を題材にした幻想的な世界）を子どもたちに楽しんでもらう活動です。

また、県民マラソンへ協賛し、ボランティア運営スタッフや、選手として参加するなど、地域の人たちとのふれあいやコミュニケーションを深めています。



運営面でも県民マラソンへ参加しています

◆Q 最後になりますが、女性執行役員の誕生で入行希望者も多くなるのではないのでしょうか。若い皆さんへ、これまでの経験を踏まえて、先輩として伝えておきたい「メッセージ」をお願いします。

あなたの夢は何ですか。働くことにより夢に一步ずつ近づけます。そして夢はきっと叶えられます。夢と一緒に追いかけてみませんか。「働く」夢中をたくさん体験し、働くことを通じて大きく成長して下さい。当行はあなたが大きく成長できる会社です。意欲、やる気、そして元気のある皆さん、両手を広げて待っています。

インタビューを終えて

伏嶋執行役員は、職場を始め、どこの場においても気さくに誰とでもコミュニケーションをとり、その場の空気を明るくモノにしていくよう努めているという印象を受けました。ふとところが大きく、何を言っても聞いてもらえそうな「姉ご」の活躍が期待されます。

時代の推移の中で学童を見守り続け30年

あすなる学園学童クラブ(高崎市) 園長 小見 勝栄



私設で学童保育所「あすなる学園学童クラブ」を開設した30年前は、まだ学童保育ということばは耳慣れない時代だった。共働きの父母にとって保育園は絶対無くてはならないものだったが、いざ我が子が学齢期を迎えると、子どもはいわゆる「鍵っ子」になる。

働かねばならない、働き続けたい父母にとって、それは深刻な問題であり、我が子を「鍵っ子」にはできないという切実な親の願いから、学童保育開設の運動が始まったのである。

働く女性の増加に伴い留守家庭児の「鍵っ子」は年々増加する。こうした問題は、個人の努力で解決できる範疇ではない。従って、学童保育は自治体行政の積極的な援護が急を要していた。一軒の家庭では子どもの教育のために、親は様々な贅沢を切り詰め、子どもに最優先の生活を第一とする。私見によれば、行政はそうした認識不足、今も決してこうした見識が十分とは言えないように思う。

学童保育は、父母が安心して子どもを産み育てられるための親の労働権の保障、子どもが豊かに成長する

ための発達段階の保障という二つの大きな役割を担っている。

現在県内のほとんどの地域で、学童保育は設置されているが、その運営は父母たちに多大な負担と献身的な努力が要求されている。そうした状況下で最近の学童保育には、新たな問題が起こりつつある。それは、日本経済の動向と軌を一にして、女性の働き方が厳しい現実に直面してからである。

経済が好調だと女性は労働現場に長時間駆り出され、不況になると当人の意志に関係なく帰宅が要求される。女性はいつの時代にも企業現場の調整弁に陥ってしまう。

パート、派遣、嘱託と雇用形態は女性が安心して子どもを産み育てる環境にはないといえる。

赤ちゃんや高齢者などの社会的弱者の人権がしっかり守られる社会であって欲しい。学童保育が充実して発展することは、その市町村の文化水準のパロメーターだと密かに思っている。



11月にもなると屋内での遊びになります



学童ではふだん見られないあどけない子どもの笑顔が見られます

新しい働き方、交流の拠点、村の未来 道の駅 あぐりーむ 昭和の取り組み



駅長 倉澤 新平

道の駅は、平成25年10月11日現在で全国に1014カ所、群馬県内に28カ所ありますが、そのうちの1つ、昭和インターに近く利根沼田望郷ラインの入り口でもある「道の駅」あぐりーむ昭和(平成23年7月30日オープン)を訪ね、倉澤駅長さんにお話を伺いました。

◆Q1 「道の駅」を整備してこうとした背景について

昭和村は、世帯数2,517、人口7,727(内外国人251人)人、標高260m~1461mに位置し、その中間は、なだらかな傾斜をなし赤城高原地帯を形成しています。基幹産業は、農業で、高原特有の昼夜の寒暖の差が大きく、県下でも有数の野菜生産地です。

村の将来像は、代々食材を作り続けてきた生産者たちの思いを後世にどう引き継ぐか、野菜の食文化を創造・発信し、野菜を通じた都市と農村との交流、村民が暮らしやすくなり、村外者が移住したいと感じられる村を描いています。

野菜をPRし、野菜が元気、人に優しい村、美しい風景、伝統文化、特産物を活かしながら、生活の中に豊かさを感じ、愛着と誇りを持つ村を目指して頑張っています。

これといった観光資源があるわけではなく、地域活性化の契機として群馬デスティネーションキャンペーンへの参加と道の駅構想を併走させる案が浮上り、観光基盤整備事業が始まりました。野菜が収穫できる道の駅は、「クルマ社会」の利点を活かし、上毛の山々、観光地に向かうちょっとした休憩スポットになるよう考えを巡らせながら出発進行中であります。

◆Q2 ハード面の取り組みや課題について

女性や足腰の弱い来訪者のために駅舎やトイレ、駐車場、売店など配慮されてきたことなどについてお話しをお願いします。

少子・高齢社会化の現状を認識しユニバーサルデザインの理念、バリアフリーについて配慮してきました。足湯は、インターに隣接している企業さんから提供いただいております。障がいのある方や高齢者、子どもたちなど幅広くご利用いただいております。



◆Q3 オープン後の来場者数の状況・企画運営面についてお話し下さい。

来場者数は、道の駅ができる前と比較し、70%ほど

増加しています。

埼玉、東京、千葉、そして近隣市町村の方が多く見受けられます。

「日本で最も美しい村」連合への加入をはじめ、やさしい王国を売り物に雄大な景色を眺めながら、野菜たちが元気に育っている畑を歩く「歩Looking」[あぜ道ハイキング]ほか、自然環境を活かした貸し農園など家族連れで参加できる、きずなづくりに寄与しています。

労働環境も自然の中で、育児・介護が必要な人、子育てが終わった人、年寄りでも働いていたい人など、食堂やレストランの経営形態に合わせ、臨時職員として雇用しており、シフト制で運営しています。職場が近いことも魅力で、有給休暇をうまく利用し学校行事や地域行事に参加しやすい体制をとっています。

◆Q4 あぐりーむ学校(農業体験や野菜収穫体験を主に取組)は、村の自然・産業を活かしながら人と人との交流を通じて「人間の幸せとは」を学び合い、考えさせ、次世代をになう若者に引き継いでいきたいとの思いが感じられます。

人権意識は、まさにそうした環境に身を置くことによって高揚していくものと言われる。

手造り体験、地域起こし、地域の歴史や自然探索、地産商品の宣伝、村内の美化活動など申広く、世代を越えての企画は女性の視点も入っていることでしょうか、実際どうでしたか。

道の駅事業は、計画段階から女性の意見やアイデアを聴き、働きやすい環境を整備しました。駅長として自身の経験の中で試行錯誤し、また目新しい情報については調査し、事業化しているのが現状です。

最後に、オープン後、2年になりますが、これからの抱負などについてお聴きします。

食事をみんなでできるような集会・会議室、研修室を兼ねたようなホールも整備していきたいと思っています。

有難うございました。新しい型の道の駅創出は大変だと思いますが、倉澤駅長さんのご活躍をご期待しております。

♥ 人権相談 「DV相談」の窓口をご存知ですか

群馬県女性相談センターでは、パートナーからの暴力などで悩んでいる女性の相談や支援、女性が抱えているさまざまな悩みの相談を受けています。相談費用は無料です。秘密は固く守りますので、一人で悩まず相談してください。

群馬県女性相談センター

電話番号▶027-261-4466 月～金曜日▶9:00～20:00 土日祝日:13:00～17:00

♥ 子育て支援の輪を広げていきませんか

♣ くるみんマーク



このマークは、事業主が、厚生労働大臣が定める雇用環境の整備について「行動計画策定指針」に照らし行動計画を策定し、計画期間内に男性の育児休業者、女性の育児休業取得率などの認定基準を満たした場合、申請を行うことができ、そのことにより、「子育てサポート企業」として認定を受け、次世代認定マーク（愛称:くるみん）を商品、求人広告などにつけ、子育てサポート企業であることをアピールすることができるものです。

♣ ささえちゃんマーク



このマークは、群馬県で実施する育児休業をはじめとした仕事と育児の両立支援に積極的な企業を支援する「群馬県育児いきいき参加企業認定制度」の認定マークで、同制度の認定を受けた企業が使用することができ、両立支援に取り組んでいることをアピールすることができます。

名称は、「企業の育児支援」「支援」「支え」から「ささえちゃん」となっており、デザインは、家庭、企業、地域が宝である子どもを守り育てていこうという気持ちを上毛三山に込めて表現しています。

♣ マタニティマーク



このマークは、国民運動計画「健やか親子21」推進検討会において、妊娠・出産に関する安全性と快適性の確保を目指し、発表されたもので、マークは、妊婦さんが交通機関等を利用する際に身につけ、周囲に妊婦であることを示しやすくするものです。また、交通機関、職場、飲食店等が、呼びかけ文を添えてポスターなどとして掲示し、妊婦さんにやさしい環境づくりを推進するものです。

♣ カエルの星

ひとつ「働き方」を変えてみよう!

カエル! ジャパン

Change! JPN 

このマークは「カエル! ジャパン」キャンペーンのシンボルマーク・キャッチフレーズです。

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たしながらも、家庭や地域生活などというさまざまな場において、また、子育て期や中高年期といった人生の様々な段階に応じて、多様な生き方が選択・実現できる社会」を目指して、平成19年に策定され、「カエル! ジャパン」というキーワードの下、このシンボルマークとキャッチフレーズにより、「憲章」及び「指針」に基づく取組を加速するため集中キャンペーンが行われています。

子どもの人権110番（全国共通・通話料無料）

0120-007-110

子どものための相談です。
一人で悩まず相談しよう!
秘密は守ります。



人権イメージキャラクター 人権まもる君・人権あゆみちゃん

主催：群馬県 群馬県人権啓発活動ネットワーク協議会 前橋地方法務局 群馬県人権擁護委員連合会
後援：群馬県教育委員会

あとがき

この四半世紀は、「女性の人権」に関連して法律や社会制度の面からも大きな動きがあり、今号は、この期間に家庭や地域、職場で、立場が異なる女性の活躍している姿、また周囲で支えている人々の姿を追ってみました。

お話を聞く中で、「自分に合った夢をもつこと」「やりたいことの中に幸せになれる目標をもつこと」が大切であり、自分の行動次第で、周りの人びととの人間関係もうまいくようになるということを教えられる気がいたします。

絆 さずな
[Hizuna]

くみん人権情報誌【秋冬号】

VOL.13

2013

●発行／群馬県人権男女共同参画課
〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号
TEL.027-226-2906(直通) FAX.027-220-4424